

アイユーゴー 通信 第9号

申し込み及び問い合わせ先: **アイユーゴー ～途上国の人と共に～ 事務局**

住所: 590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18

TEL/FAX: 072-452-8340 ・ 090-9167-7053 (新田)

振込先: 日本郵政公社: 00980-2-71223

e-mail: snittaskmj0715@yahoo.co.jp homepage: <http://aiyugo.fc2web.com> (設立: 2001/10/15)



アイユーゴー
～途上国の人と共に～の活動

自分たちの「まち」は自分たちの手で作り、自分たちの手で守ろう。

(1) 自分と「まち」の関わりのなかに自分を位置づけて。

(2) 自分が自分がという、自分中心だけではなく、相手にも「自分」があるという「相互主体」を視点に入れて。

(3) 心の支援でもいい、活動を共にする支援でもいい、自分のできる範囲で参画し、自己責任を忘れずに。

(4) そして、共に、後生にすばらしいものを残しましょう。



目次

P2. タイ・ラオス視察報告

～三木 明德～

P3. パンマパーに立ち寄って

～塚田 充宏～

P3. 総会報告・2006年度 活動報告

P4. 2007年度 活動予定

P1・4. アイユーゴーの活動の意義

右上: ラオス、サバナケート県(植林事業地)

左上: ラオス、ビエンチャン県(教員室建設事業地)

左下: 同上(完成した教員室を背景に)

タイ・ラオス視察旅行の報告

神戸大学医学部保健学科教授 三木明徳

視察旅行の目的

8月27日～9月2日までの1週間、アイユーゴー代表の新田氏に同行してタイとラオスにおけるアイユーゴーの支援地域を視察してきた。神戸大学では来年4月に医学部保健学科を大学院保健学研究科に改組し、これを機会に、新たに国際保健学領域を設けることになった。国際保健学領域では、東南アジアにおける感染症対策、母子保健、国際医療・保健活動を主要テーマにおいて、今後、我々がこれらの活動を展開していくためには、まず私自身が東南アジア地域の現状を知り、問題点を整理する必要があると判断したためである。

小学校職員室引渡し式の参加

まず最初に、ラオス・ビエンチャン近くの村を訪問し、小学校の職員室の引き渡し式に参加した。夕方5時頃、現地に到着した我々を、多くの村人たちが首を長くして待っていてくれた。引き渡し式では、村人たちが代わる代わる謝辞を述べたあと、何人もの人が私たちの健康や幸福を祈ることばを唱えながら、手首にひもを結んでくれた。そして、手作りの料理を持ち寄り、校庭で歓迎の小宴を開いてくれた。



農業研修センターや少数民族の視察

タイではパンマパー近くの農業研修センターや少数民族の小学校を視察した。また、メーホンソン県の副知事であるワチラ氏とプーク女史の案内で、いくつかの山岳少数民族居住村を訪問して、村民の生活状況を視察した。

ここ20～30年、東南アジア諸国は目覚ましい発展を遂げているが、同時に地域間格差が増大しているのも事実である。中でも、タイの発展は目覚ましく、バンコクの国際空港や市内の高層ビル群は発展の象徴である。これに対して、タイ北部の山岳地帯にある少数民族地区やラオスの農村地区は発展から取り残されており、依然として貧しい暮らしを強いられている。しかし、私の目から見ると、富裕＝幸福、貧困＝不幸という等式は必ずしも成り立たない。貧困の中でも村人たちはそれぞれにすばらしい文化や伝統、自然との共存の中で得た生活の知恵を持っている。真の意味の豊かさとは、まずは平和と心身の健康であり、少しだけのゆ



とりを感じながら、満足を知ることである。タイの山岳地帯やラオスの農村の人々の親切さや子供たちの明るい笑顔を見ると、彼らが不幸であるとは決して言えない。急激な変革や先進国の価値観

の押しつけは、村人たちにとっては迷惑千万、大きなお世話に違いない。

アイユーゴーの活動

アイユーゴーは、タイ北部山岳地帯における麻薬撲滅を目指して、教育や農業の支援を行っている。麻薬が心身の健康のみならず、犯罪や売春の温床になっており、麻薬経済から脱却するためには、けし以外で、生活を支えることのできる換金作物への転換と初等教育の普及が必要である。この点から見ても、アイユーゴーの取り組みはまことに的を射た支援活動である。ただし、教育や農業プロジェクトにおいてこれらの成果が現れてくるまでには何年にもわたる継続的な活動が必要である。アイユーゴーは決

して大きなNGOではない。しかし、村人との篤い信頼のもと、地域の人々とともに、地に足がついた活動はアイユーゴーだからこそできるもので、アイユーゴーの大きな特徴の1つである。いくつかの地域に的を絞り、しっかりとした活動拠点を形成し、その成果が目に見えるようになるまで、地味ではあるが息の長い協力活動を展開することが必要である。成果が現れてくれば、自然と周りの地区からも人々が集まって来るだろうし、地区行政との連携もさらに強固なものになるはずである。

文化と伝統の尊重の中から

保健・医療の国際協力に関するこれまでの経験から、農業や教育においても、最新技術の導入は現実的でないと思われる。先進国と同じ様な施設の建設や最新機器の導入には莫大な費用とマンパワーが必要で、このような巨大プロジェクトは政府間協定に基づいて行われることである。しかし、そのうちのいくつかが必ずしもうまく機能していないのは、現地における人材育成が不十分であるのに加えて、期待される成果が大衆のニーズと大きく乖離していること、支援期間が終わると、消耗品の調達ができなくなったり、保守・点検、修理ができず、せっかく導入された高価な機器類も単なる鉄の塊になり、埃をかぶったまま放置されてしまうということである。しかし、これは巨大プロジェクトに限ったことではない。アイユーゴーが行う小さなプロジェクトでも、現地におけるリーダーの育成と、現地にある物資の活用が非常に



重要なポイントである。現地における自然環境との調和の中で、それぞれの文化と伝統を尊重しながら、彼らが持っている様々なシーズを他の地域や国際社会が求めるニーズとマッチさせ、情報を交換したり、様々な技術を

紹介することによって、換金作物への転換や生産性の向上、品質の改善を図ることができる。また将来、このような取り組みを彼ら自身の力でやっていくためには、子供たち全員が、少なくとも初等教育を受ける必要がある。

この視察を通じて

この旅を通して、新田氏をはじめ、これまでに現地で学校建設や橋、道路の整備など、様々な活動をしてこられた会員のみなさんが、現地の人々や地域行政からいかに慕われ、信頼されているかを実感した。そして今、その成果が着実に芽を出していることをこの目で確かめることができた。この芽を大切に育てることによって、やがて美しい花が咲き、豊かな稔りの時期を迎えることができるはずである。

小さい頃、私の古里である香川県では白い装束に身を包み、「同行二人」と書かれた菅笠を持ったお遍路さんをよく見かけた。「二人」とは、お遍路さん自身と、お遍路さんのお供をしてくれる御大師さん、つまり弘法大師である。そして、いつも御大師さんがそばにいてくれることによって、苦しい山道も何とか乗り越えることができるという意味である。アイユーゴーとは「共にあること」、すなわち「同行」である。

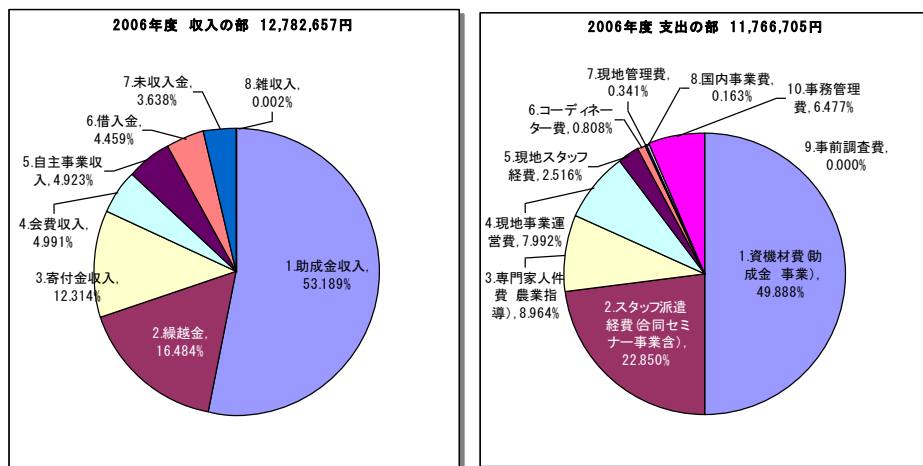
私たちは、時にはゆっくりと走ることはあっても、一步一步着実に、タイ、ラオス、ベトナムの人々とともに歩いていくことができればと念じている。



(アイユーゴー副代表 三木明徳)

総会報告

アイユーゴーの第6回総会が、平成19年5月13日、午後13時30分より、京都府国際センターで開かれました。委任状を含め、42名(正会員数)の参加のもとに、2006年度事業報告、決算報告、会計監査報告がなされ、原案通り承認された。引き続き、2007年度事業計画、予算案が審議され了承されました。下のグラフは、2006年度の決算である。



活動報告

I. 教育支援プロジェクト

i. タイ北部の少数民族のための職業訓練所建設

(タイ・バンマパー郡) (財)大阪コミュニティ財団の助成による。



ii. 小学校教員室建設 (ラオス・マイポーシー村)

東海地区有志のご寄付による。(写真表紙)

II. 農業開発支援プロジェクト

i. 少数民族の住民参加型農村開発

＜山岳地帯に居住する少数民族自らが参加して経済的自立と環境保全を図るための植林事業＞



(タイ・バンマパー郡) 地球環境基金の助成による。

ii. 開発支援センターへの人材派遣ならびにパイロットファーム建設 (ウオーターシステム整備)

＜開発支援センターにおける農業専門家による人的・技術的支援＞

ii. 開発支援センターへの人材派遣ならびにパイロットファーム建設 (ウオーターシステム整備)

＜開発支援センターにおける農業専門家による人的・技術的支援＞



(タイ・バンマパー郡) (財)日本国際協力財団の助成による。

iii. 少数民族の住民参加型農村開発

＜少数民族に畜農業の指導する住民参加型農村開発＞



(タイ・パンムー地区タンボン郡) 日本郵政公社国際ボランティア貯金のご寄付による。

iv. 日本、タイ、ラオス、ベトナムの4ヶ国の専門家参加の第1回共同セミナーを開催。(テーマ: 農業、福祉、衛生)

(タイ・バンマパー郡) (財)三菱銀行国際財団の助成による。

III. 自主事業 (ワークキャンプ)

i. 日本、タイ、ラオス、ベトナムの4ヶ国の専門家参加の第1回共同セミナー開催へのワークキャンプを行った。

ii. ラオス中南部サバナケートにて貯水池建設事前調査としてワークキャンプを行った。

パンマパーに立ち寄って

昨年12月31日から、今年1月3日まで、チェンマイ・メーホンソンを友キャンピングして来ました。その際、パンマパー郡の農業研修センターに立ち寄ってきました。1月2日ということで、センターにはどなたもいらっしゃいませんでしたが、幾種類もの作物がきちんと整理された畑で試験栽培されており、今後、この地域の特産品や、地域を支えるような農産品が生み出される期待を抱かせてくれる雰囲気を感じていました。同地を訪問する前日、チェンマイ市内でやはり試験栽培をしている施設を見学しましたが、そちらに比べると規模も

2007年度
活動予定



ラオス・サバナケート省

サイフォウホン地区

・農業地域開発プロジェクト

- ① 池の修繕及び土木工事技術指導
(日本郵政公社国際ボランティア貯金)
- ② 農業支援センターの建設及び運営指導、有機栽培・衛生講習の実施
(日本郵政公社国際ボランティア貯金)
- ③ 農民の自立支援と森林保護のための農村開発 (地球環境基金)

・保健衛生に関する事業

- ① 少数民族の貧困と保健衛生に関連する調査。

・自主事業 (ワークキャンプ)

- ① 貯水池工事の協力と食文化交流

タイ・メーホンソン県バンマパー郡

・農業地域開発プロジェクト

- ① 貯水池及びパイプライン設置
(日本郵政公社国際ボランティア貯金)
- ② 森林保護
(緑の募金)

ベトナム・ラムドン県ダラット地区

・自主事業 (ワークキャンプ)

- ① ダラット大学学生と少数民族の自立支援のためのジョイントワークキャンプ。
- ② 小学校建設

マダガスカル共和国

・保健衛生に関する事業

- ① 救急車寄贈(ワークキャンプ)

マダガスカル共和国への救急車寄贈事業

熊取町が本会に寄贈した救急車をマダガスカル共和国で医療

活動を行う同国のNGOに寄贈し、同国の消防防災体制の構築に寄与することにある。マダガスカル共和国は、「サイクリングエイド」などを通し、本会が所在する熊取町と、すでに協力関係がある。国際花と緑の博覧会が愛知で開催された際に、マダガスカル

大統領が熊取町を表敬訪問した。そのとき、町に対し、同国に医療に関する支援などを要請した経緯から、このたび、廃車となる救急車を同国に寄贈することになった。また、救急車の寄贈に関

しては、両国が、民間を通し、直接地域住民に寄与することを願うところから、双方のNGOが救急車寄贈のための架け橋となった。

今後の活動

- ・現地NGOと覚書を交わす。
- ・輸送業者によって救急車を現地NGOまで搬送する。
- ・現地に本会代表ならびに救急車に関する専門家を派遣する。



アイユーゴーでの活動

～会則の目的～

会則の目的にあるように、本会は、開発途上国では「協力を必要とする人たちの自立を目指」して農業と福祉を中心とした開発援助を行います。学校建設、農業情報センター建設といった特定の活動をもって終了とはしないで、「その地の文化を尊重理解し、人と人の交わりを通じて草の根の友好親善と自らの人間としての価値を高め」つつ、現地の人たちの自立をサポートしていくことを目的としています。日本国内においては、「その活動意義の啓蒙に励み、さらに国際社会に通ずるリーダーを育成することに務める」ことを活動のひとつとしています。さらに、現在の日本にとって必要と考えられる活動に参加していきます。みなさまのご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。 代表理事 新

《ベトナムワークキャンプ中止のお知らせ》

11月に予定していましたベトナムワークキャンプについて：

現地でのスケジュール調整が困難になっていることと、さらに、現地担当(ダラット大学教授)があまりに多忙であるため、今後スムーズに参加を希望される方をお連れすることができないのではと危惧いたしまして、中止とさせていただきます。ご希望されていた方々には大変ご迷惑をおかけしました。まことに申し訳ありませんでした。

活動の意義②

《後記》

「アイユーゴー 通信第9号」が、やっと皆様のお手元にお送りすることができました。本会の事務局は、役員がそれぞれの仕事を担当し運営されつつあります。役員は働き盛りの人ばかりです。そういう状況の中で、唯一、大学生である間城徹也君がアイユーゴーの仕事をいくつか担っています。この通信の編集もひとつです。孤軍奮闘し、ようやく仕上げることができました。彼に心から感謝している次第です。(新田幸夫)